

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2276600406
法人名	有限会社 政経
事業所名	グループホーム 豊田長藤の家
所在地 (電話番号)	磐田市上新谷483番地の1 (0538)34-9000
評価機関名	セリオコーポレーション株式会社
所在地	静岡市清水区迎山町4番1号
訪問調査日	平成21年8月29日

【情報提供票より】(平成21年8月13日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年12月15日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	22 人	常勤 17 人/ 非常勤 5 人/ 常勤換算	16.5 人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨造り 3階建ての1階～3階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	¥35,000	その他の経費(月額)	¥10,000
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	昼食	
	夕食	おやつ	
または1日当たり ¥1,000			

(4) 利用者の概要(平成21年8月13日現在)

利用者人数	27 名	男性	6 名	女性	21 名
要介護1	2 名	要介護2	9 名		
要介護3	9 名	要介護4	6 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 88 歳	最低	61 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	松原内科呼吸器科医院
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

区画整理された田んぼが広がり近くには図書館や市の総合施設も建つ豊かな環境にある、間もなく開設から6年を迎える3ユニットのホームである。駐車場のフェンスは沢山の花籠が掛かり、ホーム来訪者の目を和ませ、利用者には水遣が日課になっている。利用者の平均年齢は88歳と高く、経年による重度化に伴い、より高いスキルが求められる中であって家族からは職員が本当に良く対応してくれると感謝する言葉が多く寄せられている。理念である「地域と共に歩む笑顔あふれるなごみの家」のいっそうの実践にホームがひとつになって今後も取り組んでいかれることを願ってやまない。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者や計画作成担当者の交代が影響したのか前回評価での改善課題についてホーム会議等で話し合う機会は持たれなかった。職員の育成や介護計画見直しの道筋作りについては今後の取り組みに前向きである。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価の実施にあたっては、時間的制約から職員全員での取り組みが出来ず、一部職員に気づきを記入してもらい管理者がまとめている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1回開催している。参加メンバーは、自治会長、市の長寿推進課職員、民生委員、地域包括支援センター職員、近隣保育園園長、利用者家族など多彩な顔ぶれが参加している。定期開催と委員の協力により地域との連携も強化され、事業所にとって有意義なものとなっている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>事業所の玄関には、苦情相談窓口を明記したポスターを掲示し、重要事項説明書にも担当窓口が記載されており、外部に意見・苦情を表せる場があることを家族にも周知している。職員も家族が意見を言いやすい環境作りには留意している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入しており、地域のお祭りへの参加、小学生の体験学習の受け入れ、近隣の保育園のお遊戯会への招待など積極的に地域との交流を深めている。また防災訓練では、避難誘導班による利用者の安全確認が行われることがマニュアルにも入っており、地域との安心できる連携体制が取られている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営規定には、「家庭的な環境と地域住民との交流の下で」という地域密着型サービスとしての基本方針が明示されている。また、独自の理念として「地域と共に歩む笑顔あふれるなごみの家」を掲げ、運営目標である「感謝の気持ちをもった介護」を実践し、日々取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念や運営目標を事務所やフロアに掲示しており、職員の意識づけを図っている。職員も利用者の笑顔が多く見られるよう、意識した支援を日々心掛けている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、地域のお祭りへの参加、小学生の体験学習の受け入れ、近隣の保育園のお遊戯会への招待など積極的に地域との交流を深めている。また防災訓練では、避難誘導班による利用者の安全確認が行われることがマニュアルにも入っており、地域との安心できる連携体制が取られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回評価で見出された課題については、出来るところから取り組み改善しようとする努力がみられた。自己評価の実施にあたっては、時間的制約から職員全員で取り組む時間が得られず、ユニット毎の個性が見られないものであった。	○	事業所の質の確保のためにも、自己評価には是非職員全員で取り組み、より多くの意見が反映されたものになることを望みたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催している。参加メンバーは、自治会長、市の長寿推進課職員、民生委員、地域包括支援センター職員、近隣保育園園長、利用者家族など多彩な顔ぶれが参加している。定期開催により地域との連携も強化され、事業所にとって有意義なものとなっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	長寿推進課主催の会議、事業所連絡会に出席している。毎月空室情報を報告したり、市からは研修の案内、介護保険制度改正の説明、災害情報などを細やかに流してくれるなど、共にサービスの向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	請求書と共に手紙を入れ暮らしぶりを報告している。体調の変化や定期健診以外の受診の際には電話で随時連絡をしている。	○	事業所での利用者の暮らしぶりを写真や文書で伝えたり、活動状況や職員の異動等も伝えていける、ホーム便りのようなものを定期的に発行するなどの取り組みを期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所の玄関には、苦情相談窓口を明記したポスターを掲示し、重要事項説明書にも担当窓口が記載されており、外部に意見・苦情を表せる場があることを家族にも周知している。職員も家族が意見を言いやすい環境作りに留意している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間の異動があり、利用者全体とのなじみの関係作りを心掛け、新人にはベテラン職員が付き、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。法人内の急な異動が何件かみられた。	○	職員の異動の際は、利用者、家族の不安を最小限に抑えるためにも事情をよく説明し、引き継ぎ期間を十分に取るなど配慮を含めた対応が望まれる。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修に参加している。外部研修への参加や事業所独自の勉強会は行われておらず、今後については前向きに検討中である。	○	介護の質の確保・向上に向けて、現在検討中である事業所独自の勉強会については是非実施されていくことが望まれる。スキルアップを望む職員のためにも事業所として研修に参加できる機会を与えていかれることを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は長寿推進課主催の会議、事業所連絡会で同席はしているが、職員が同業者と交流する機会は持たれていない。	○	他法人の同業者との勉強会や研修会にも参加し、情報交換や交流を行い、事業所や地域全体としてのサービス水準の向上につなげて頂きたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に利用者・家族に見学をしてもらい、来所が困難な場合には、自宅や入院先に向いて丁寧に説明するなど、安心してサービスを開始してもらえるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の持てる力を活かし、畑仕事や食事の準備、片付け、洗濯たたみなどをしてもらい、利用者との日々の会話からは、知らない時代背景を学んだりしながら共に支え合う関係作りに留意している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者との日々の会話を多くするよう心掛け、希望の把握に努めている。入居前の生活習慣を出来る限り考慮し、新聞やたばこなどはそのまま継続してもらっている。飲み物はコーヒーや青汁などを個々の嗜好により提供している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の支援の中で得た職員それぞれの気づきは記録して介護計画に活かしている。また利用者や家族面会時に聞き出した意向も取り入れている。しかし職員に介護計画が十分理解されていない面も見られる。	○	日々実践可能な介護計画は現場と連動し、必然的に職員の間では濃くなる。直接利用者に関わる職員全員の話し合いに基づく介護計画策定が望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は基本的に介護保険の期間に準じて見直している。3ヶ月ごとにモニタリングを行って、体調に変化が見られた場合や退院時にはその都度プランの立て直しを実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院への受診介助、買い物付き添い支援、外泊・外出など利用者や家族のその時々々の要望に応じた柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医へは月1回定期的に受診し、受診結果は家族にも報告している。状況変化に応じて家族の意向を確認した上で、協力医療機関を受診する連携体制が取られている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者・家族の意向があれば協力医と出来る限りの対応を行う方針である。家族と医師・看護師と職員が連携をとりながら、過去に終末期の介護に携わっている。看取りに関しては口頭の説明にとどまり、同意書やマニュアルは用意されていない。	○	今後グループホームにとって看取りは避けられないことが予想されるのでターミナルマニュアルを用意され、同意書を交わし、関係者全体の方針の共有を図っていくことが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の居室に入る時は、声掛けしノックをして了解を得てから入室している。職員は利用者の尊厳を損ねないような声掛けを日々の支援で配慮している。記録等については個別にファイルし管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の共同生活としての日課は大まかに決めているが、利用者のペースを尊重している。食事介助に長い時間をかけていただけることに家族から感謝の言葉があった。表現に不自由な利用者には意思の確認をしながら対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日曜日三食と毎朝食は手作りの食事を提供している。給食も個々にあわせて刻んだり、お粥にしたり、事業所で採れた野菜を使ったお味噌汁を付けるなど工夫されている。配膳や下膳、食器洗い・拭きは利用者が積極的に取り組む姿が見られた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週三回行っている。お風呂が嫌いな利用者には上手く声掛けをして誘い、清潔を保てるよう配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	事業所敷地内の畑では、利用者が育てた野菜の収穫を楽しみにしている。また、食事の配膳の手伝いや片付け、洗濯たたみなど能力に応じて役割を担っている。貼り絵や唄など入居前の楽しみごととも継続できるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	花見や保育園との交流で外出したり、利用者の希望があれば、一緒に買い物や外食に出掛けているが日常的な散歩の時間を十分に取れていない。	○	周辺環境にも大変恵まれているので、積極的に声掛けをしていただき散歩の機会を増やしたり、できるだけ利用者の希望に沿った支援を期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は日中玄関の施錠はせず、利用者の行動を見守るようにしている。利用者の習慣で居室に施錠されている場合は内部の様子を窺いながらも本人の意思を尊重している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の防災訓練に参加し、避難誘導班による利用者の安全確認が行われることが自治会のマニュアルにも入っており安心できる地域との連携体制が取られている。非常食も台所の棚に置かれ、分かるように表示されていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特に注意が必要な利用者に限り、食事は主食・副食に分け個別に毎食記録している。水分摂取量も各自の身体機能に応じて必要量を摂取できるよう声掛けし、不足気味の場合は、ヨーグルトやポカリスエットなど嗜好に合わせて勧め、水分補給に心掛けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外でもくつろげるよう玄関前にはベンチが置かれ、たくさんの花がきれいに植えられていた。居間は広く明るい空間になっており、壁には塗り絵や折り紙など利用者の作品を掲示している。昼食後はソファに座り利用者同士がゆったりとくつろぎ語り合う姿が見られた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が居心地良く過ごせるよう馴染みのものを自由に持ち込んでもらっている。使い慣れた椅子や箆笥がある居室、お孫さんからの手紙や写真が飾られた居室、自作の素晴らしい貼り絵が飾られた居室など、利用者の個性が表れた居室作りがなされている。		